様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 ２ 日現在

機関番号：１５２０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５２８４０１２

研究課題名（和文）懐徳堂の総合的研究

研究課題名（英文）A Comprehensive Research on Kaitokudo

研究代表者
竹田　健二（TAKEDA, Kenji）

島根大学・教育学部・教授

研究者番号：１０１９７３０３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　6,900,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の成果は、以下の三つに区分することができる。第一に、懐徳堂・重建懐徳堂に関する資料の調査・整理が大いに進展した。調査の結果、幾つかの新事実が明らかとなった。第二に、懐徳堂と重建懐徳堂の実態についての解明が大きく進んだ。第三に、懐徳堂関係資料のデジタルアーカイブ化を進め、既存のデータベースを拡充した。
　これらの研究成果については、各研究者がそれぞれの論文として発表した。代表者の竹田は6編、分担者の湯浅・寺門は各3編を発表済みである。また、竹田・湯浅・寺門は、国内で開催された国際学会で研究発表を行い、竹田と寺門とは、中国・復旦大学で開催された国際学会でも研究発表を行った。

研究成果の概要（英文）：For this research project, the outcome can be classified into the following three parts.First, we conducted further investigation of the historical materials on Kaitokudo and Choken-Kaitokudo. Our project brought several new facts to a light. Second, based on the materials we found, the new facts and condition of Kaitokudo and Choken-Kaitokudo were further investigated. Third, we turned the past data into the digital archive, expanding the Web Kaitokudo.
The research project members have already published articles on those outcomes and findings. Takeda, the leader of this research project, published six articles. Yuasa and Terakado published three papers each. In addition, Takeda, Yuasa and Terakado gave presentations at an international conference held in Japan. Takeda and Terakado further gave the presentation at the international conference held at FUDAN University, China, in May, 2014.

研究分野：中国哲学

キーワード：懐徳堂　重建懐徳堂　懐徳堂文庫　五井蘭州　中井木菟麻呂

１．研究開始当初の背景

江戸時代に大坂にあった懐徳堂は、大阪の学問的源流と位置付けられる、漢学の学校である。懐徳堂は享保 9 年（1724)、「五同志」と呼ばれる大坂を代表する大商人らを中心に設立され、享保 11 年（1726）に江戸幕府による官許を得た後、いわば半官半民の学校として大坂の文教を担った。懐徳堂の学問は、初代学主の三宅石庵には特に陸王学の影響が強く窺えるが、懐徳堂創立時から助教を務めた五井蘭洲、及び蘭洲の教え子である第 4 代懐徳堂学主の中井竹山と弟の中井履軒により、朱子学中心に定まったとされる。

懐徳堂は明治 2 年（1869）に閉鎖されるが、明治 43 年（1910)、懐徳堂の顕彰を目的とする懐徳堂記念会（以下、記念会）が設立された。大正 2 年（1913）に財団法人となった記念会は、大正 5 年（1916）に講堂（重建懐徳堂）を建設、この重建懐徳堂において多数の講義・講演を実施し、第 2 次世界大戦末期に焼失するまで、大阪の文科大学・市民大学として機能した。重建懐徳堂は、むろん江戸時代の懐徳堂と同じような漢学のみの学校だったのではないが、記念会の活動は近代日本における儒教の展開の一面と捉えることができ、そして江戸時代の大坂学問所・懐徳堂と大正から昭和初期にかけての重建懐徳堂とを、中断を挟みながらも連続する一つの学校として捉えるならば、大阪を江戸（東京）・京都と並ぶ、日本儒教史における重要な存在と位置付けることができる。

日本の学術史や大阪文化に対して懐徳堂が果たした役割については、近年国際的にも高い関心が寄せられている。しかし、長い歴史を持つ懐徳堂・重建懐徳堂は、関わった学者の数も多く、その学問全体は全体としてかなり複雑である。従来、懐徳堂・重建懐徳堂の学問を総合的・実証的に解明しようとした研究は皆無であり、しかもこれは個人研究として十分に成果を上げることが極めて困難であった。

そうした中、本研究の代表者である竹田、及び研究分担者の湯浅・寺門、3 名の連携研究者、研究協力者の池田（財団法人懐徳堂記念会研究員兼主事）は、平成 12 年に懐徳堂研究会（代表：湯浅邦弘）を立ち上げ、以後懐徳堂に関する共同研究を継続的に行ってきた。

２．研究の目的

本研究は、近世以降の日本における儒教の中心地の一つとして従来注目されることの少なかった大阪に焦点を当てて、江戸時代の大坂学問所・懐徳堂と、大正から昭和初期にかけて財団法人懐徳堂記念会が運営した重建懐徳堂とを、中断を挟みながらも連続する一つの学校として位置付けた上で、（１）懐徳堂・重建懐徳堂の学問について、総合的な資料調査を基盤とした実証的解明を行うこと、（２）懐徳堂・重建懐徳堂の学問を中心として、近世以降の大阪における儒教の展開の全容を解明すること、（３）大阪における儒教が日本の儒教史において占める位置を解明すること、を目的とした。

３．研究の方法

本研究は、下記の四点を並行的に進めることにより、研究目的の達成を図った。

（１）懐徳堂文庫資料及び財団法人懐徳堂記念会所蔵資料等の総合調査を実施し、研究期間内に懐徳堂・重建懐徳堂に関する貴重資料の調査をすべて完了する。（主に平成 25～27 年度）

（２）ＷＥＢ懐徳堂の内の既存のデータベースを拡充し、懐徳堂・重建懐徳堂に関する基礎的資料のデータベース化をすべて完了し、可能な限りデジタルアーカイブ化を進める。（同上）

（３）上記の作業と並行して、懐徳堂・重建懐徳堂の学問についての実証的解明を分担に応じて進める。（平成 25～28 年度）

（４）日本儒教史における懐徳堂の思想史的意義を解明した上で、江戸（東京）・京都に大坂を加えた形での近世日本儒教史の再構築を試みる。（平成 25～28 年度）

４．研究成果

本研究課題の成果について、以下、研究方法の記述に即しつつ述べる。

（１）懐徳堂文庫資料及び財団法人懐徳堂記念会所蔵資料等の総合調査については、懐徳堂・重建懐徳堂に関する既存の貴重資料の調査を研究代表者・研究分担者・連携研究者・協力研究者がそれぞれ分担し、概ね完了した。その成果は、『増補改訂版懐徳堂事典』（主な発表論文等・図書①参照）における各資料についての記述にも反映されている。

もっとも、研究期間最終年度である 2016 年に、財団法人懐徳堂記念会が新たな懐徳堂関係資料 158 点を購入して大阪大学に寄託、これらが懐徳堂文庫に新たに収蔵された。この新収資料に関しては、研究代表者の竹田を中心として急遽調査に着手し、その結果、158 点の中には大阪人文会会員であった太田源之助旧蔵資料 47 点が含まれていること、その中には明治末の懐徳堂顕彰運動の実態解明に資するものが存在すること等を解明した（主な発表論文・雑誌論文②参照)。しかしながら、懐徳堂文庫への収蔵が最終年度であったため、研究期間内にその全容について十分に解明するには至らなかった。

この他の資料調査の成果としては、大阪府立中之島図書館に収蔵されている資料に関して、五井蘭州関係及び西村天囚関係の資料を中心として調査・研究を進め、その結果、従来知られていなかった新事実を解明するなど、大きな成果を上げた（主な発表論文・雑誌論文③④⑦参照)。

（２）懐徳堂・重建懐徳堂に関する基礎的資料のデータベース化については、配分予算の

許す限り実施することとし、分担者の湯浅邦弘を中心として進めた。デジタルアーカイブ化未着手の資料の中から重要度が高いと考えられるものを選択して撮影を行い、撮影した画像をＷＥＢ懐徳堂の既存のデータベース（http://kaitokudo.jp/）に搭載してその拡充を行った。具体的には、「懐徳堂内事記」・「懐徳堂外事記」・「学問所建立記録」・「懐徳堂定約附記」・「論語聞書」・「中井終子日記」を公開した。残念ながら、予算の都合上、撮影できなかった資料、或いは撮影は行ったもののデータベースへの搭載・公開が実施できなかったものが生じた。これらについては、後日他の予算等を活用し、可能な限り速やかにＷＥＢ上に公開する予定である。

（３）懐徳堂・重建懐徳堂の学問についての実証的解明、及び（４）日本儒教史における懐徳堂の思想史的意義の解明、並びに近世日本儒教史の再構築については、下記の研究会合（合計 15 回開催）における研究代表者・研究分担者・連携研究者・協力研究者等による個々の研究発表、及びその発表後に参加者全員によって行われた討議を中心に取り組んだ。

○2013 年度第 1 回 2013 年 6 月 15 日（土）
・矢羽野隆男・池田光子「天理大学附属図書館所蔵「並河潤菊女遺物諸目録」紹介」
・凸版印刷株式会社「トッパンのアーカイブ事例」他
○2013 年度第 2 回 2013 年 9 月 9 日（月）
・岸田知子「愛日文庫と読売新聞（大阪）8 月 31 日夕刊の記事について」
・矢羽野隆男「並河寒泉の陵墓研究」
・池田光子「西村天囚書簡について―概要と現状―」
・湯浅邦弘「懐徳堂学派の「異端」の説」
○2013 年度第 3 回 2013 年 12 月 15 日（日）
・岸田知子「北京人民大学シンポジウムの報告」
・寺門日出男「五井蘭洲と津軽藩」
・藤居岳人「中井竹山がめざしたもの」
・竹田健二「『懐徳堂纂録』とその成立過程」
・矢羽野隆男・池田光子「並河潤菊家傳遺物目録について」
・湯浅邦弘「台湾大学で開催された「第四届日本研究年会」の報告」
○2013 年度第 4 回 2014 年 3 月 26 日（水）
・寺門日出男「大阪府立中之島図書館蔵五井蘭洲遺稿について」
・矢羽野隆男「泊園書院の『大学』解釈―徂徠学の継承と発展―」
・竹田健二「新田文庫所蔵『懐徳堂記録拾遺』と懐徳堂記録」
・岸田知子「広瀬旭荘と幕末の大坂」
・湯浅邦弘「懐徳堂デジタルコンテンツの制作について」
○2014 年度第 1 回 2014 年 6 月 29 日（日）
・湯城吉信「中井蕉園『騮碧嚢』について」
・黒田秀教「盡くは書を信ぜざる儒者―中井履軒の經書觀と經學手法と―」
・福田一也「中井履軒と均田制」
・佐藤由隆「「鵺学問」三宅石庵と陸象山」
・竹田健二「「東アジア文化交渉学会第 6 回年次大会」（中国・復旦大学）報告」
・福田一也「報告・懐徳堂関係資料のデジタルアーカイブのための撮影について」
○2014 年度第 2 回 2014 年 8 月 25 日（月）
・寺門日出男「大阪府立図書館所蔵五井蘭洲関係資料について」
・杉山一也「中井履軒『史記雕題』伍子胥列伝について」
・矢羽野隆男「並河寒泉『居諸録』に見える風聞―島津久光への期待―」
○2014 年度第 3 回 2014 年 12 月 20 日（土）
・椛島雅弘「中井履軒『述龍篇』と八陣解釈」
・池田光子「（新収資料）尾藤二洲宛書簡について」
・草野友子「懐徳堂文庫所蔵『管子纂詁』書き入れの初歩的整理」
・竹田健二「西村天囚の懐徳堂研究と五井蘭洲関係資料」
・湯浅邦弘「梅花学園資料室所蔵「中井終子関係資料」について」
・竹田健二「懐徳堂文庫資料のデジタルアーカイブ化について」
○2014 年度第 4 回 2015 年 3 月 27 日（金）
・久米裕子「中井履軒『通語』について」
・竹田健二「西村天囚の五井蘭洲研究と『懐徳堂記録』」
・佐藤由隆「『蘭洲遺稿』の他氏批評から見る五井蘭洲の学問観」
・寺門日出男「五井蘭洲『非伊編』について」
○2015 年度第 1 回 2015 年 6 月 6 日（土）
・湯城吉信「五井蘭洲「中庸天命性図」の復元を試みる」
・黒田秀教「儒者のやまとごころ　―中華論より萬世一系論へ―」
・湯浅邦弘「板木のデジタルアーカイブ―韓国所蔵の板木と懐徳堂文庫所蔵の板木―」
・矢羽野隆男「西村天囚の楚辞研究―「日本楚辞学の基礎的研究」の一環として―」
○2015 年度第 2 回 2015 年 8 月 22 日（土）
・佐藤由隆「消された格物致知論―自筆本『質疑篇』と『質疑疑文』―」
・寺門日出男「五井蘭洲『非伊編』について（続）」
・中村未来「中井竹山・履軒の『尚書』注釈―今古文解釈を中心に―」
・竹田健二「東京大学史料編纂所所蔵の懐徳堂関係資料―中井木菟麻呂関連の八点について―」
・湯浅邦弘「懐徳堂文庫貴重資料の大阪府文化財指定の可能性について」
○2015 年度第 3 回 2015 年 12 月 6 日（日）
・湯城吉信「蘭洲遺稿は自筆か？」
・池田光子「天囚書簡」の全体像について
・池田光子「第二次新田文庫」整理作業のための事前調査
○2015 年度第 4 回 2016 年 3 月 29 日

・湯城吉信「五井蘭洲の『荘子』理解（その１）」
・寺門日出男「中井履軒の京都行について」
・藤居岳人「尾藤二洲の朱子学と懐徳堂の朱子学と」
・湯浅邦弘「懐徳堂デジタルアーカイブの新展開」
・湯浅邦弘「懐徳堂の新しい図録制作について」
・湯浅邦弘「懐徳堂記念会新収資料について」
○2016 年度第 1 回 2016 年 6 月 19 日（日）
・湯城吉信「五井蘭洲の『荘子』理解（その２）」
・竹田健二「懐徳堂文庫新収資料・整理番号 42～45 の四点について」
・竹田健二「東アジア文化交渉学会第 8 回大会の報告」
○2016 年第 2 回 2016 年 8 月 22 日（月）
・湯城吉信「五井蘭洲の学派理解—五井蘭洲の『荘子』理解（その３）」
・佐藤由隆「五井蘭洲と中井履軒の格物致知論」
・矢羽野隆男「土佐儒官山本家と大坂の儒者—寒泉・東畯・南岳」
・竹田健二「懐徳堂文庫新収資料と太田源之助」
○2016 年第 3 回 2017 年 3 月 25 日（土）
・湯城吉信「五井蘭洲『茗話』の写本の存在について」
・佐野大介「孝行譚の和様化と『とはずがたり』」
・黒田秀教「懐徳堂における漢作文と達意と—徂徠学派との比較を通じて—」
・寺門日出男「並河寒泉の蕉園詩文集編纂」
・矢羽野隆男「明治期大阪の儒学振興と懐徳堂と」
・竹田健二「中井木菟麻呂が受け継いだ懐徳堂の遺書遺物—小笠原家に預けられたものを中心に—」

こうした研究会合における研究発表は、出席者全員による討議を踏まえた上で、各発表者が更にブラッシュアップし、その後学術論文或いは国内外における学会での研究発表として発表した。研究期間内に、研究分担者の岸田知子氏が急逝し、研究組織や分担等について急遽見直すこととなったが、研究会合は概ね当初の予定通り開催し、多くの成果を得た。

その中でも特筆すべきものは、先ず五井蘭州関係の資料調査の進展を踏まえた、初期懐徳堂の学問の実態解明である。すなわち、研究分担者の寺門は、大阪府立中之島図書館に収蔵されている『質疑篇』『蘭洲先生遺稿』等が蘭洲自筆の資料である可能性が高いことを明らかにし、また従来『非物篇』と並んで蘭洲の代表的著述の一つとされながらも、実態が不明であった『非伊編』について、蘭洲による伊藤仁斎批判の実態を解明した（主な発表論文・雑誌論文④⑦参照）。

また、研究代表者の竹田は、西村天囚による懐徳堂研究に用いられた資料について、それらが懐徳堂文庫と大阪府立中之島図書館に現存していることを明らかにし、またそれらの資料はいずれも、大阪人文会の太田源之助が大阪市史編纂係旧蔵の資料を書写して作成したものの写本であることなどを解明した（主な発表論文・雑誌論文③⑤参照）。

以上のように、本研究により、懐徳堂・重建懐徳堂に関する資料の調査・整理は進展し、また初期懐徳堂における学問の実態や、懐徳堂顕彰運動の実態について、従来の研究では十分には解明されていなかった問題の解明が大きく進んだ。中でも、初期懐徳堂において重要な役割を果たした五井蘭洲に関する研究が進展したことは、懐徳堂の最盛期とされる中井竹山・履軒の学問、ひいては懐徳堂の学問全体について、改めて検討を加える余地があることを強く示唆した。残念ながら、本研究の中ではそうした検討を十分に行うことはできなかった憾みが残る。今後の新たな取り組みによってそうした検討を行い、懐徳堂・重建懐徳堂に関する研究の新たな展開を考えたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 12 件）

① 竹田健二、中井木菟麻呂が受け継いだ懐徳堂の遺書遺物、『中国研究集刊』、査読有り、第 63 号、2017 年、印刷中
② 竹田健二、懐徳堂文庫新収資料と太田源之助、『懐徳堂研究』、査読有り、第 8 号、2017 年、p.39－53
③ 竹田健二、西村天囚の五井蘭洲研究と関係資料―『蘭洲遺稿』・『鶏肋篇』・『浪華名家碑文集』について―、『懐徳』、査読有り、第 85 号、2017 年、p.48－59
④ 寺門日出男、五井蘭洲『非伊編』について、『懐徳』、査読有り、第 85 号、2017 年、p.8－14
⑤ 竹田健二、西村天囚の五井蘭洲研究と『懐徳堂記録』、『懐徳堂研究』、査読有り、第 7 号、2016 年、p.41－63
⑥ 湯浅邦弘、懐徳堂学派の『論語』解釈、『懐徳堂研究』、査読有り、第 7 号、2016 年、p.3－17
⑦ 寺門日出男、大阪府立中之島図書館蔵蘭洲遺稿について、『懐徳堂研究』、査読有り、第 6 号、2015 年、p.3－12
⑧ 竹田健二、『懐徳堂記録拾遺』と「懐徳堂記録」、国立高雄餐旅大学応用日語系『「観光・言語・文学」国際学術研討会論文集』、査読有り、2014 年、p.17－36
⑨ 竹田健二、『懐徳堂纂録』とその成立過程、『中国研究集刊』、査読あり、第 58 号、2014 年、p.15－32
⑩ 湯浅邦弘、書簡と扇のデジタルアーカイ

ブ―大阪大学懐徳堂文庫の取り組み―、『懐徳堂研究』査読無し、第５号、2014年、p.3－11
⑪ 寺門日出男、中井履軒撰『世説新語補雛題』について、『国文学論考』、査読有り、第50号、2014年、p.75－82
⑫ 湯浅邦弘、懐徳堂デジタルアーカイブの展開、『懐徳堂研究』、査読無し、第４号、2013年、p.3－13

〔学会発表〕（計５件）
① 竹田健二、西村天囚の懐徳堂研究と五井蘭洲関係資料－『蘭洲遺稿』・『鶏肋篇』・『浪華名家碑文集』について－、東アジア文化交渉学会第８届年会、2016年５月８日、関西大学（大阪府吹田市）
② 湯浅邦弘、懐徳堂研究とデジタルアーカイブ事業、東アジア文化交渉学会第８届年会、2016年５月８日、関西大学（大阪府吹田市）
③ 寺門日出男、五井蘭州と古義学、東アジア文化交渉学会第８届年会、2016年５月８日、関西大学（大阪府吹田市）
④ 竹田健二、『懐徳堂纂録』とその成立過程、東アジア文化交渉学会第６届年会、2014年５月９日、復旦大学（中国・上海市）
⑤ 寺門日出男、中井積徳の中国史書注釈、東アジア文化交渉学会第６届年会、2014年５月９日、復旦大学（中国・上海市）

〔図書〕（計２件）
① 湯浅邦弘（編著者）・竹田健二・寺門日出男・藤居岳人・矢羽野隆男・池田光子他13名、大阪大学出版会、増補改訂版懐徳堂事典、2016年、全337頁
② 湯浅邦弘、大阪大学出版会、懐徳堂の至宝―大阪の「美」と「学問」をたどる―、2016年、全92頁

〔その他〕
ホームページ等
懐徳堂研究会：
http://www.let.osaka-u.ac.jp/~kaitoku-s/

６．研究組織
(1)研究代表者
竹田　健二（TAKEDA Kenji）
島根大学・教育学部・教授
研究者番号：１０１９７３０３

(2)研究分担者
湯浅　邦弘（YUASA Kunihiro）
大阪大学大学院・文学研究科・教授
研究者番号：３０１８２６６１

岸田　知子（KISHIDA Tomoko）
中央大学・文学部・教授
研究者番号：２００９３４０３

寺門　日出男（TERAKADO Hideo）
都留文科大学・文学部・教授
研究者番号：００２１７４１５

(3)連携研究者
矢羽野　隆男（YAHANO Takao）
四天王寺大学・人文社会学部・教授
研究者番号：８０２４８０４６

藤居　岳人（FUJII Taketo）
阿南工業高等専門学校・創造技術工学科・教授
研究者番号：８０２２８９４９

湯城　吉信（YUKI Yoshinobu）
大阪府立大学興業高等専門学校・総合工学システム学科・教授
研究者番号：９０２３０６１４